

# キャリアに拓く 1年生の活動

訪問先 地域学部・農学部・教員養成センター

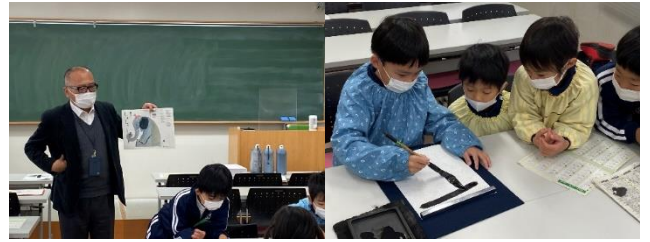
鳥取大学附属小学校では、大学の学部や研究機関、地域の施設等と連携して学びの場をつくり、子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」を実施しています。

1年生の活動の様子を紹介します。

附属小学校の教育活動に日ごろからお世話になっており、地域学部棟に研究室がある4名の先生方を訪問しました。地域学部棟は、附属幼稚園の園長や附属中学校の校長を兼任されている先生の研究室があったり、教員養成向けの教科に関する講義が行われたりしているため、附属小学校の1年生にとっては身近に感じることのできる建物でもあります。そのため、学校園のつながりを感じたり、大学附属の子供であるという帰属意識をもったりすることが期待できます。今回の訪問では、体験活動とともに、子供が将来への希望や見通しをもつことができるように研究の一部を話していただいたり先生への質問に答えていただいたりしました。

## 書写の研究をされている先生（書写についての話、書道体験）

「グループで協力して1つの文字を書いてみよう」という活動を行い、グループで協力して1つの文字を選び、筆順にそって順番に協力して書いていきました。その中で、友達と教え合って1つの文字を完成させたり、最後まで書いたりすることの大切さを学びました。質問コーナーでは、先生が大学で学生に授業をしている内容や年数、先生と書道との出会いなどについて応じていただき、職業や生き方についても触れることができました。



## 保育・幼児教育の研究をされている先生（あかちゃん研究についての話）

保育園・幼稚園の先生になるために大学生がどんなことを学んでいるかという話を聞いたり、また、赤ちゃんを対象にした研究の内容や方法についていろいろな機材も交えて分かりやすく説明していただいたりしました。その後、赤ちゃん人形を使って、赤ちゃんの抱き方、応急処置の仕方などを教えていただいたりしました。赤ちゃん人形の抱っこ体験、研究機器の体験を通して、子供たちは赤ちゃんの成長や研究の内容について興味を深めていました。



## 教員養成に携わっておられる先生（あそびの研究についての話、ゲーム体験）

先生が作られたゲームの体験を通して、どのようなことに焦点を当てて研究をされているのか、子供に分かりやすく説明していただいたり、子供たちの質問に答えたりしていただきました。子供たちは、自分たちがこれまで抱いていた「ゲーム」の概念や印象と、体験を通して感じたことを比較して捉えており、研究の視点を子供なりに理解したり、自分たちが普段遊んでいるゲームとの質の違いを感じたりしていました。



## 砂と水・地形を専門としておられる先生（水と砂、地形についての話）

水と砂を揺らしてできる砂紋の実演を見せていただいたり、筒の中で下にたまった砂をひっくり返すとき、どうしたら砂が速く落ちるか予想しながら実験したり、砂を傾けたときの角度と富士山の傾斜を比べたりしました。子供たちは砂の不思議について、どうしてそうなるのか興味をもっていました。質問コーナーでは、自然科学の不思議さには法則があることを教えていただき、現象の背景にある事柄に目を向ける機会を得ることができ、理科を学習すると分かるようになると言葉を添えていただいたことで、3年生以降の教科学習を楽しみにする様子が見られました。



先生方みなさんが、体験活動を取り入れたり、事前の準備を入念にさせていただいたりして、1年生に合うように考えてくださっていたので、話だけでは理解が難しい内容でも、興味をもって聞くことができました。初めて大学の中に入った子供たちがほとんどで、子供たちはそれぞれの研究室の先生方の話や体験活動に興味をもって取り組み、もっと知りたいことや疑問に思ったことを質問していました。「3年生になったら書道をするのが楽しみ。」「大学に行ったら〇〇先生みたいに研究をしてみたい」、「赤ちゃんのことをどうやって調べるのか分かった。自分の妹のことも分かるようになりたい」、「大人になったとき、〇〇について、たくさんを知っておいた方が人生楽しい気がする」、「ぼくはどの大学に行こうかな。もっと他の研究室も知りたいな」など、自分の将来について考えた子供もたくさんいました。